
コナン争奪戦

新田 真一

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

コナン争奪戦

【Nコード】

N0006A

【作者名】

新田 真一

【あらすじ】

突然の転校生、「えりな」、彼女は積極的にコナン（新一）にアタックしてきた。それを見て嫉妬する少女達、果たしてコナンを自分の手にする少女は誰なのか？

く前編く

キンコンカーンコンキンコンカーンコン

コナンは、いつもどおり学校に通っていました。

先生「みなさん！今日は、転校生を紹介します！女の子です。はいってきて」

ガラッ

ドアの向こうからは、いかにも元気そうなショートカットの女の子がいました。

先生「大阪から来た、水沢えりなさんです。」

えりな「水沢えりなですーよろしくたのむわ！」

えりなは、元気よく挨拶をしました。

先生「じゃあ席は……。江戸川君の隣があいてるわね！水沢さんあそこの席にいつてく

ださいね。」

えりな「はーーーーーい！」

そして、えりなはコナンの隣に座りました。

コナン「よろしく。」

えりな「よろしくなー。んっ？」

えりなは、コナンの顔をのぞきこみました。

コナン「な、なんだよ」

えりな「あんた名前は？」

コナン「えっ？江戸川コナンだけど……？」

えりな「めがねちよつとはずしてくれへん？」

コナン「えっ？」

いわれるがままに、コナンはめがねをはずしました。

えりな「やっぱそうやーーーーー！！コナン君わいのタイプやねん、わい、コナン君のこと

好きになってもーたわ！」

コナン「灰原？」

哀「な、なによ！」

コナン「なんか考え事をしてるみたいだけど、どうかしたか？」

哀「なんでもないわよ！」

コナン「わーっ たわーっ た！」

アガサ家

哀「ねえ、博士……」

博士「どうした？哀君？」

哀「……」

哀「なんでもないわ……」

次の日

元太「なあ！」

歩美・光彦・哀・コナン・「ん？」

元太「今日、水沢の歓迎会しようぜ！」

光彦「いいですね！」

さっそく、えりなをさそいにいきました。

えりな「えーーーーー！うれしーわー！で、いつ、どこでやるん？」

元太「ん？今日だけど、だれんちでやるのか？」

歩美「あたしんちだめーーーー！」

元太「あれも！」

光彦「僕の家も」

哀「私もだめよ」

みんな、いつせいにコナンの方を向きました。

コナン「えっ？」

元太「コナンの家はどなんだ？」

コナン「べ、べつにいいけど」

えりな「みんなー！ありがとな^^」

コナンの家

コナン「いらつしゃーい！」

みんながきました。

へやにあんないされると、そこには、お菓子がならべてありました。
飲み物用意するね！

こなん「えーっと、あつ1本足りない！あつここに種類は違っけど、
ジュースがあるから、これでいいや！」

ならべて、みんなにとっていってもらうと、哀は、さっきコナンが
用意した、種類の違うのを、とりました。
ごく。

哀「なにこれ〜？」

哀が飲んだもの、それはお酒でした。

そして哀は、よっぱらってしまいました。

コナン「はいばら！大丈夫か？」

哀「ん〜？江戸川くう〜ん！好きよ〜！！」

コナン「ノノノノノノノ」

そして、酔っぱらっていたとはいえ、哀は、ついに本音が出てしま
ったのです。

そして、哀は、どさくさにまぎれて、コナンに、キスをしました。
それをみた、えりなど、歩美は、コナンをちよつとだけあきらめま
した。

1年後・・・

そして、えりなは、転校しました。
そして、えりなが転校したあとも、哀と、歩美の、こなんそうだつ
せんはつづくのであった！

く前編く（後書き）

あとがき

みなさん！よんでくれてありがとうございました！

短いお話ですが、楽しんでもらえましたか？

初心者なので、変ですが、おゆるしくださーい！

く後編く

コナン、哀、歩美、元太、光彦は、2年生も、同じクラスになれました。

歩美「コナン君、またクラス一緒になれたねー」♪♪♪

元太「少年探偵団は不滅だぜ！！！！！」

光彦「そうです！」

哀「ちょ、ちよっとまってよ！私がいつから少年探偵団になったのよ！」

歩美「いーじゃない！そんなこと気にしなーい！」

哀「・・・・・・・・・・・・・・・・」

コナン「目が笑ってないぜ・・・・？」

光彦「そういえば、水沢さん、元気ですかね」

哀「ああ、あのえりなつて子？」

哀は、また目が笑っていませんでした。

光彦「今度の連休、泊まりに行きませんか？」

元太「おっいいなー」

元太「コナンはどうなんだ？えっ？」

ちよつと、元太はコナンにいやみっぽくいました。

コナン「えっ？べ、べつにいいけど？」

連休

ガタンゴトン

コナン達は、電車に乗って、大阪に向かっていました。

歩美「ついたあ~~~~~！」
コナン「えっと、確か水沢さんが迎えに来てくれるハズなんだけ
ど……」

えりな「コナンくう~~~~~ん！」

遠くの方で、えりならしきこえが聞こえました。

コナン「ん？」

そして、コナンが振り向くと、えりながもうスピーードで、はしってきました。

だだだだだだだだだだだだだだだだだ！

コナン「うわあ！」

えりなは、コナンに抱きつきました。

それを見ていた、歩美は、負けずとコナンに抱きつきました。

光彦「見てくださいよ元太君」

クルツ

哀・ムッス~~~~~!!!!!!

元太「なんか、すごく目つきがわりいぞ！」

光彦「あの、じゃれてる3人をみて怒ってるんですよ！」

元太「じゃあ、灰原って、コナンのこと……？」

光彦「そうですよ……！！！！！！！！！！」

元太・光彦・ドキドキドキドキ

えりな「さあ、あがつてーな！」

少年探偵団「おじやましーす！」

少年探偵団・哀は、水沢えりなの家に来ていました。

えりなは、コナン達が来るときいていたときから、ある作戦を思い
ついていました。

えりな「飲み物だすわー」

歩美「ありがとー」

がちゃがちゃ

えりなは、ジュースをだしていました。

えりな（ふふうふ、わいも、哀ちゃんみたいに酒飲んで……
うふう！）

えりなの想像

ごくっ、ごくっ

えりな「あつはあ~~~~ん、コナンく~~~~んだ・
い・す・き！」

コナン「えっ？」

コナン「じ、じつは、俺もお前のこと……」

えりな「あっ！」

えりなは、机の角に、つまずいてコナンに抱きつきました。

そして……

えりなはどさくさにまぎれて、こなんに、キスをしました！

現実

えりな（ふふうふうふうふう）

えりなは、みんなに、ジュースを配るとき、どさくさにまぎれて酒を飲みました。

えりな「ひっく、ひっく、」

コナン「水沢、大丈夫か？顔赤いぞ？」

えりな「女つてもんはあ~~~~~！！」

コナン「はっ？」

コナンは、えりなの飲んだものを見ました。

それは、お酒でした。

コナン「おいっ水沢！」

そんなコナンの言葉も耳に入らず、叫び続けました。

そして、えりなはしばらく叫び続けたあと、ぱったと、ねてしまいました。

哀「まったく、おてんば物よね」

歩美「うん」

そして3時間後………

えりな「むはあ！」

歩美「おっは」

えりな「あっ！ご飯の準備せな！」

かちやかちや

歩美「おいし……料理うまいネーえりなちゃんって！」

えりな「てれるやんか！でも今回は力作なんやで！」

コナン「この炒め物うめーな！以外といい嫁になれるかもな！水沢つて」

えりな「そ、それな、哀ちゃんがつくつたんや……………」

コナン「えっ？」

哀「¥¥¥¥¥¥¥¥¥¥」

コナン「あつ………」

えりな「さ、さあそろそろ寝よか」

午後１１時

哀は、まだ起きていました。

コナン「すーすー」

哀「ふっ、寝顔はかわいいわね………」

哀（いつからかしら、あなたを思う、この気持ちいつからかしら………）

哀「寝ましょ」

朝

コナン「ふあゝ」

えりな「おっは~~~~~」！

こなん「そろそろいこうか」

哀「そうね」

歩美「ばーいばーい」

振り向いたコナンの目には、涙を惜しんで、手をふっているえりなのすがたがありました。

ときっ

転校したときから、涙なんて見せたことのないえりなに、ちょっと、コナンは胸がときめきました。

えりな「コナンくう~~~~~~~~ん！好きやでえ~~~~~~~~」
「だいすきだからな~~~~~~~~！」

そんなえりなに、コナンは、笑顔で手をふりました。

ゝ後編ゝ（後書き）

あとがき

第2段を書いてみましたゝゝ！

これから小説を、送りたいと思うので、よろしく！

く 最終回く

コナン達は、小学3年生になりました。

歩美「やっぱ、少年探偵団は不滅なんだね！」

元太「そうだぜ！」

コナン「あはは………」

哀「ふっ（ちよい笑）」

光彦「去年、水沢さんの家に行ったとき、水沢さんがお酒飲んで大変だったですね」

コナン「そう………だね」

元太「コナンモテモテだったよなあ」

歩美「ねえ、あしたえりなちゃん誘ってキャンプに行かない？」

元太・光彦「いいな………！」

コナン・哀「べ、別にいいけど………？」

歩美「じゃあ、今日博士の家で会議い………！」

元太光彦「おう！」

博士家

歩美「あしたはあ」

かくかくしかじか

元太「わかった………」

歩美「じゃあ、あしたね！」

コナン「バイバイ」

次の日

アガサ家

哀「おはよう・・・・・・・・・・」

コナン「だいじょうぶか・・・・・・・・？なんか眠そうだな？」

哀「昨日、遅くまで調べものして今日の準備してたら、あまり寝れなくて・・・・・・・・・・ファ」

歩美「おっはあ〜〜〜〜〜！」

げんた・光彦「おはよう！」

歩美「レッツゴーーーーーー！」

博士「わしゃ、先に行つて準備してるから電車に乗つてえりなくんの家に行つて、キャンプ場まで電車で行きなさい」

コナン「わーった」

元太「じゃあな」博士ちゃんと準備してろよ！」

ガタンゴトン

ガタンゴトン

コナン「ボーーーーー」

哀「どうしたの？窓なんか眺めて？」

コナン「んっ？なんか、嫌な予感がして・・・・・・・・。」

哀「ふーん」

ガタンゴトン

ガタンゴトン

歩美「ついたあ~~~~~~~~」

コナン「さて、水沢の家に行くか」

水沢家

えりな「コナン君こんちわあ〜はよいこーはよいこー!」

コナン「そうだな!」

そして、駅に行くまで、えりなと歩美はコナンの腕にしがみついていた。

哀「ふん!」

ガタンゴトン

ガタンゴトン

コナン「はあ~~~~~~~~」

えりな「どしたん?ためいきなんかついて……」

コナン「なんかな~~~~?嫌な予感がするんだって!」

ガタンゴトン

ガタンゴトン

そして、コナンの嫌な予感は、キャンプ場で起きるのです。

えりな「わあ~~~~~!きれいなキャンプ場やなあ~~~~~」

博士「お~~~~~い!」

コナン「ん?」

博士「ここじゃ〜〜〜〜〜〜よ！

コナン「ああ、そこか」

えりな「だれや？あのおっちゃん」

博士「ははは………。」

博士「さ、さあ点との準備もできとることだし、お昼にするかのう」

元太「やったあ〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜！！！！！！！！め
しだあ！」

光彦「げんた君って、ご飯のことになる………」

元太「なんだよ？」

博士「ま、まあご飯にしようじゃないか」

3分

博士「できたぞ〜〜〜」

元太「なんだよ〜〜〜カップメンかよ〜〜〜〜〜〜〜！」

コナン「ははは」

ズルズル

モグモグ

博士「夜はバーベキューじゃから、薪を集めてきてくれんかのう？

少年探偵団・哀「はい！」

歩美「結構あるねおモイ〜〜〜！」

コナン「わっ！」

ガラガラガラ

コナンは、崖から落ちてしまいました。

コナンのぞく

少年探偵団あい・えりな「こなんく〜〜〜〜〜〜〜〜〜ん！
ん！」

哀「博士に知らせた方がいいわ！」

タタタタタタタタタタタタタタタタ

博士「なに！？コナン君が崖から落ちたじゃと？」

哀「ええ、でもさいわいしたが軟らかい土みたいだったから……」

博士「落ちた場所に新……いや、コナン君を探しに行こう！」
えりな「そやな」

タタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタ

歩美「コナン君……どこなの？（涙）」

元太「おーーーーーい！こなんがいたぞーーーーー！」
タタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタ（猛スピード）

哀「江戸川君！……」

そこには、ぐったりとして頭から血を流し気を失っているコナンの姿がありました。

博士「とにかく、テントにもどって応急処置をするんじゃ！山の中
じゃから、救急車が来るのに時間がかかるから……」

タタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタタ

テントに、運び応急処置をして、救急車を待ちました。

哀「江戸川君……（うるめ）」

歩美「こおなあんくうん（号泣）」

えりな「こなんくん……」

元太「こなん……」

光彦「コナン君！」

博士「息はあるみたいじゃから、助けが来るのをまつしかあるまい……」

ピーポーピーポー

えりな「きた！」

コナンは、病院へ運ばれいちめんをとりとめました

小五郎「こ、こなんは……………」

医者「ええ、助かりました。手の骨が折れてるみたいですけども」

コナンの病室

えりな「よかったわぁ！コナン君が無事で！」

コナンのそく
少年探偵団「よかった！」

哀「ちよつと、江戸川君大事な話があるんだけど、2人にさしてく
んない？」

コナン「ああ、いいぜ。ちよつと、みんな出てって、くれないか？」
みんな「いーよー」

哀「私、前から工藤君のこと……………好きだったの……………」
・」

コナン「えっ？」

コナン「灰原……………俺も……………好き……………」
・…だったんだ……………」

そして、コナン争奪戦は、愛の勝利で、幕を閉じました！

く最終回く（後書き）

あとがき

いえいえ！

終わりました！

みなさんのご感想お待ちしております！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0006a/>

コナン争奪戦

2010年10月9日20時24分発行